

福岡女子大学
同窓会

第99号



筑紫海会会報

事務局 福岡女子大学地域連携センター内 TEL・FAX (092) 692-3194
ホームページ <http://www.fwu.ac.jp/tukusimikai/>または「筑紫海会」で検索



100周年記念階段アート

会長挨拶

第13代筑紫海会会長
花崎 正子（大10被）



筑紫海会会員の皆様、昨年7月、会長に就任いたしました花崎正子でございます。年明けはさらに新たな変異株「オミクロン株」が加速的に蔓延しました。会員の皆様がお元気にお過ごしでしょうか。誠に願ってやみません。

私と同窓会活動に関心を寄せるのは、その目的に時代が求める社会価値が存在すると思うからです。私たちに今必要なことは、そこに至る自己変革のための「さらなる学び」ではないかと考えています。同窓会は任意団体であるが故に純粹に自由に自己貫徹が可能

です。母校は教育で日本の女子大学を目指されています。同窓会は、求められる価値を吟味・創造し、生き方への展開に日本一でありたいと思っています。その実現のために、会員の皆様との情報共有が重要で

す。HPをフルに活用いたします。HPをご訪問いただきたいと思います。また、その議論展開の場として同窓会事務局がアゴラ的存在として機能します。事務局へも是非お気軽にお立ち寄りください。

創立100周年記念日まで、残すは約1年。そのプレイベント等を大学と連携して計画・準備し、意義あるものにしたと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

自身もそのような役回りを果たしたいと考えています。かつて大学は象牙の塔と称され、「研究者の大学」と位置づけられていました。それが「学生の大学」とへと変容し、今、「地域の大学」という側面に光が当たっています。内に閉じず、外に開かれた大学にならねばなりません。「大学の中に街がある。」これを実現する主役の一人は同窓会でありましょう。大学と混然一体となつて、キャンパスを人が躍動する場にしたいと思っています。

学長挨拶

福岡女子大学理事長・学長
向井 剛



卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。お過ぎでしょうか。

本学創設（1923年）の数年前、スペイン風邪と呼ばれるパンデミックが発生し、今また100年の時をおいて再びコロナの恐怖が世界を覆っています。大学は、各方面の支援を受け、コロナ禍に屈することなく、学生、教職員一同が知恵を出し合い、日々の活動につとめています。

ご挨拶が遅れました。昨年4月、理事長・学長職を拝命いたしました。今や日本の女子大学トップ2

です。欧米の主要大学には、卒業生の組織への対応を主務とする副学長がいて、直接、皆様に大学情報を発信するチャンネルがあります。私

自身もそのような役回りを果たしたいと考えています。かつて大学は象牙の塔と称され、「研究者の大学」と位置づけられていました。それが「学生の大学」とへと変容し、今、「地域の大学」という側面に光が当たっています。内に閉じず、外に開かれた大学にならねばなりません。「大学の中に街がある。」これを実現する主役の一人は同窓会でありましょう。大学と混然一体となつて、キャンパスを人が躍動する場にしたいと思っています。

令和4年度筑紫海会総会のご案内

令和4年度はコロナ禍のため、福岡女子大学において対面総会を開催、また同時にZoomにより配信するオンライン総会の両様で実施いたします。

総会のみ開催ではありますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- (1)日 時：令和4年5月15日(日) 10:00～対面総会受付開始
11:00～開会(対面及びオンライン)
(2)会 場：①対面総会 福岡女子大学C201講義室
②オンライン総会 Zoomによる同時配信
(3)参加費：無料
※対面総会ご参加者の年次会費、寄付金は受付いたします
(4)議 事：・令和3年度事業・決算報告
・令和4年度事業計画案・予算案
・令和4年度役員案
(5)申込方法：締切日：4月28日(木)
・記載事項【住所・氏名・卒業年度・学科・専攻・電話番号・参加方式(対面又はオンライン)】

- ①対面総会希望→ハガキ、FAX、メールのいずれか
②オンライン総会希望→メールのみ（お申し込みのメールアドレスに配信させていただきます）。
なお、アクセス数の関係で先着100名様とさせていただきますので、予めご了承ください。

※ご不明な点は筑紫海会事務局へお気軽にお尋ねください。

当番学年…令和4年度 大学37、38、57、58、66回生
令和5年度 大学38、39、59、60、67回生

第9代筑紫海会会長
福田 順子先生
を偲んで
木村 和子（大12理）



福田 順子先生

先生は九大の助手として就職され、同じ時期に九大に出来た計算機センターの初めからのユーザー、研究者として活躍されました。当時福岡女子大では家庭理学科の内容拡充を目指して、近藤教授、国宗教授を中心に「計算機数学」という教科が新設され、その非常勤講師に福田先生がお願いされました。丁寧な指導のもと、当時女子大の就職先にはなかった「プログラマー」として多くの同窓生が大活躍されていく

総会当番学年ご挨拶

実行委員長

別府 きみ（大37理）

同窓生のみならず、こんにちは。コロナ禍が続いていますが、健やかにお過ごしのことと思います。近年、女子大も色々と変化が

あるようです。昨年の「かすみ祭」はYouTube配信が導入され、ハイブリッド形式で開催されました。また、TVで女子大の「ウェルカムバックドラフト会議」の様子が全国放映され、嬉しく拝見しました。女子大のHPを久しぶりに見てみると、学部はもろん部活も知らない名前が！時の流れを痛感しています。さて、今年の筑紫海会総会はオンラインとの併用で実施することとなりました。遠方のみならずもご参加くださると嬉しいです。

総会当番学年は延期続きで3年目、そろそろお役目を果たしたい！どうぞ懐かしいお友達とお誘い合わせの上、対面総会又はZOOMにてご出席くださいますようお願いいたします。

波紋



▼新米支部長の私のもとに支部長会の案内の連絡が入った。「今年の支部長会はズームで実施します」と言われ「えっ、ズームってどこですか？」と思わず問い返してしまつた。勿論オンライン会議のことで、何しろITにはできるだけ関わりを避けてきた私。まあ何とかやっかいなことを正直思った。

▼会議当日、本当に繋がるのかとドキドキしながらその時を待った。全支部が繋がり会議が始まると不安は消え去り、画面に釘付けになった。世代や学科、地域を超えた同窓生の声や、大先輩である新会長の母校に対する熱い思いに触れ、一挙に私自身の50年前の女子大時代にタイムスリップしたのである。

▼当時英文学科3年生の私は恒例のシェイクスピア祭のディレクターとして取り組み、大学祭では実行委員長として「女はどう生きるか」というテーマのもと、第一線で活躍中の先輩方を招きシンポジウムを開いた。「女子大」だったからこそリーダーとしての力を磨くことができた。自立して生きることの大切さを学び、卒業後は教職の道に進んだ。

▼今の私の生き方の原点は「女子大」にあったと、今回のズーム会議を終了し感慨に耽った。今後一支部長として母校に恩返しせねばと思う次第である。

筑豊支部 支部長
永末久美子（大22英）

去る令和3年11月12日から12月25日まで、福岡女子大学図書館1階美術館内で、大学と同窓会の共催で中村江月追悼展が開催された。中村江月（康美）先生（大2国）は、1994年の日展初入選以降、幾度となく日展に入選され、万葉集などの美しい日本語にこだわった作品が多い。生涯にわたって書を楽しみ、書の楽しさを伝える活動が続けられた。



左から久徳先生、向井学長、中村民雄様、中村史雄様、梶山最高顧問、花崎会長

中村江月追悼展に寄せて

鬼木 文（大32食）

江月先生との出会いは、平成6年頃、子どもたちの通っていた書道教室でした。教室の掃除を保護者が当番制で担当していました。が、教室に残っている生徒が減ってくると、先生との雑談になります。先生の半生や子育ての悩みなどいろんな話をしました。その中で、先生は私と同じ大学の卒業であることがわかりました。

子どもたちが教室を卒業してから、私も大人の教室で習うことになりました。先生はいつも優しく丁寧に指導してくださいました。生徒の目の前で書いてくださるお手本は、みんなのため息を誘うほどきれいでし

た。美文字を目指す友人もたくさんできて、楽しい時間でした。

今回の追悼展は、令和3年夏に江月先生の息子さんの発案で、11月の一周忌にあわせて開催することになりました。先生にゆかりのある方たちが先生の作品を囲み、先生を懐かしむというもので、会場は母校福岡女子大学の美術館に決まり、作品を大学に寄贈することになりました。

皆様のご協力で無事に開催日を迎えることができ、期間中は多くの方々にご来場いただきました。書の世界に魅力を感じる書家の熱い想いを改めて知ることができました。開催にご尽力くださいました先生方、同窓会の方々に案内してくださった筑紫海会役員の皆さま、美術館担当の職員の方々、授業の合間に手伝ってくれた学生さんに深く感謝いたします。

最終日のとても寒いクリスマスに「ありがとう。」と江月先生の明るいお声が聞こえた気がしました。また、先生の美しい作品に会いに大学の美術館にまいりたいと思います。

近藤浩平先生の講習会に参加して

国際教養学科1年

長 咲智子

今回、「中村江月追悼展」の一環として開催された近藤浩平先生の講習会に、私たち福岡女子大学書道部より3名が参加いたしました。授業の都合上、全員の参加が叶わなかったことは残念ですが、お話だけでな

く優しく添削もしていただき、大変貴重な経験となりました。仮名に慣れていた私にとっては難しく感じたので、添削をしていただく作品としては漢字の作品を準備しました。しかし、実際に当日の近藤先生のご講話を聴くうちに、先生ご自身が仮名をいかに楽しまれているか、仮名がいかに自由な表現を可能にするものなのか伝わってきて、仮名の作品に挑戦してみればよかったと少し後悔をしております。線が、点



学生が持参した作品を近藤先生に添削していただく様子

文字を書かれていますというより、語りかけているような不思議な感覚を覚えまして。現在の福女大書道部は4年生1名、1年生4名で活動をしており、仮名の作品を書いている部員はいません。約2年の間、部員がひとりとなっても先輩が活動を続けてくださったからこそ、私たち1年生はこの書道部に入部することができました。そしてもうすぐ、先輩は卒業されてしまいます。今回、近藤先生にお会いして教えていただいた書道の新しい楽しさも含め、これから、先輩のつないでくださった書道部で私たちが楽しく活動が続けたいと思っています。

支部だより

広島支部

支部長

小林 洋子（大22英）

広島支部は現在75名。これまで概ね2年に1回の支部総会を開催してきておりますが、直近では2018年6月でした。1986年の第1回から数えて17回目。その後末崎さん（大17被）から支部長を引き継ぎ、18回目を開催すべく準備を始めていたところで新型コロナウイルス感染者数拡大という事態になりました。やむなく中止。会場まで予約していたのに残念です。

山口支部

支部長

藤本 厚子（大30国）

山口支部はもとも5つのブロックに分かれており、従来は総会の引き受けを持ち回りで担当しておりました。しかし、平成28年度頃から5つのブロックのうち、3つのブロックが「活動が困難である」という理由で、休止状態となっています。役を引き受けてくださる方を探してもなかなか見つからない、ということがその主な理由です。会員数は107名ほどおられるのですが、全体に高齢化しており、若い方も同窓会に関心が向かない、ということが原因になっていると思われま

それは開催し、近況を話し合いたいものだと思います。広島県は昔で言えば安芸と備後。前回の会場は福山市（備後）でしたので、今度は安芸の宮島はどうだろうかなどと勝手に考えています。

地理的距離が心理的距離となり、ついつい福岡の母校が意識から遠くなるのは否めません。支部長会、同窓会総会が対面で開催される日が戻ってきましたら、私の心理的距離も縮まると期待しています。早くそのような日が来ることを祈りつつ、支部だよりを締め括らせていただきます。

ろうそく能

昨年10月11日（月）、大学会館で開催された「第6回福岡女子大学ろうそく能」に、同窓会も招待されました。感染防止対策のために5席のみの招待でしたが、会長・副会長・理事の5名が同窓会を代表して参加させていただきました。狂言「清水」、能「清経」――しばし、コロナ禍の不安な状況を忘れ、風流な世界に浸ることが出来ました。



クラス委員会報告

理事会では、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、対面でのクラス委員会開催は困難だと判断し、書面での開催に切り替えることにしました。令和3年10月、その旨を記した文書とともに以下の資料を300名余のクラス委員に送付しました。

支部長会報告

令和3年11月20日（土）午後、オンライン会議で支部長会を開催しました。向井剛理事長・学長、渡辺浩志副理事長もご参加ください、13支部の代表すべての参加でパソコン画面には全員の顔が見え、順調に会が進行しました。



- (1) 会長挨拶と諸事ご報告
- (2) 大学の現状
- (3) 令和3年度筑紫海会役員及び事務局員
- (4) 同窓会の活動について
- (5) 理事選考委員就任並びに理事候補者ご推薦のお願い
- (6) クラス会員配付用プリント

事前に支部長に活動状況についてのアンケートをとり、集約した資料をもとに支部活動の活性化に向けた協議を行いました。

- (1) 会長挨拶
- (2) 学長挨拶と大学の現状報告
- (3) 福岡女子大学創立100周年記念事業について
- (4) 筑紫海会活動報告
- (5) 各部（総務・事業・広報）報告
- (6) 協議

活発に協議がなされ、終了予定時刻を30分延長するほどでした。支部の活性化が筑紫海会の活性化ともないます。当日発言いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の活動に取り組んでいきたいと存じます。

イルミネーション

点灯式

昨年11月12日（金）、キャンパスイルミネーション点灯式に参加しました。

福女大フィルのメンバーによる弦楽四重奏「彼方の光」の演奏後、向井学長挨拶、花崎会長挨拶、近隣地域の来賓挨拶、学生代表挨拶がありました。その後、イル

ミネーションを手掛けられた照明デザイナーの紹介・イルミネーションの説明があり、司会の学生のカウンタダウンで点灯、メインストリートの桜の木にとった淡いピンク色のイルミネーション「冬の桜」の登場となりました。



日々感謝

福岡市立点字図書館音訳ボランティア

脇水 明子さん（大19英）



今から20年程前、ロサンゼルス小さなローカル日本語放送局でボランティアアナウンサーの仕事をしていました。当時インターネットはありませんでしたが、この放送局では日本から送られてくる録音番組が主で、日本語のテレビ・ラジオの生放送はありませんでした。

英語の洪水の中で生きていた日本人、日系人の方にとって、時間が限られているとは

無鉄砲と思いつきの先

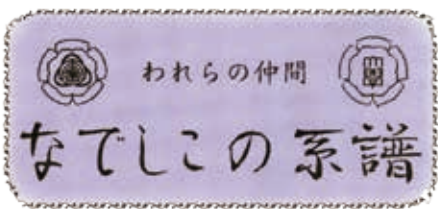
ウェブメディア『大字基山』編集長
江藤（旧姓清永）裕子さん（大53環）



11年前、東京・半蔵門での会議中に東日本大震災は起こった。天井から漆喰がパパラと落ちる中、気を取り直して再開……と数分後に2度目の揺れ。慌てて皇居に避難し、大変な目にあつたと歩いて帰宅すると、大津波がモニターに映っていた。その後、復興の進む三陸地方を訪れる機会があつたが、その爪痕は想像を絶するものだった。

「人生は今が大事」。大切

ター、プロデューサーなどの手で一つの番組が出来上がるのと同じです。多くの人の手を経て一冊の声の本が出来上がるというのは、放送の仕事に通じるものがあります。確かに、視覚障がいの方の数はいくつかも知れませんが、数少ない方も知れませんが、ですが当時、ラジオから流れて来る日本語に耳を傾けてくださる方がいらつしやる限り、仕事を続けて行こうと思つておりました。ですから、たとえどんなに少なくとも、声の本を待つてくださる方々に私の声がお役に立つのであれば、これからも力を尽して



思い込んだら一途な私は、つまりは無鉄砲なところがあ

る。女子大の環境理学科に進学したことも、その一例。数学は赤点の常連だったが、研究者に憧れて理系を志し、ゼミでも「向いてない」と諭されながら、九大の大学院に進学した。そして挫折。

とはいえ、納得の上のこと。切り替えは早かった。当時、マスメディアの医学・健康情報の信頼性が揺らいでいた状況に正義感を覚え、人生初の上京を決断。畑違いの企業広報の世界に飛び込んだのだ。採用担当者曰く、「大



いきたいと思つております。思えば、学窓を旅立つてからいつの間にか半世紀が過ぎてしまいましたが、気持ちはいまですが、確実に年齢は積み重なつております。古希も終え、健康で、微力ながら社会のお役に立てているのか

などと思うと日々感謝です。

最後に、音声訳ボランティアにご興味のおありの方は、福岡市立点字図書館にご連絡ください。お待ちしております。

学院まで何かを突き詰めた経験は強い。周囲に「も」キヨさんはまた」と苦笑されながら、無鉄砲さ非常識さを受け止めてもらえた学生時代のおかげで、己の信念に一生懸命になった。

ローカルメディア運営は継続し難いというのが、この業界の常だ。コロナ禍真つ只中だが、これからでもできる限り長く事業を続けていきたい。そして、地方から、新時代の幕開けの一端を担っていけたらと思つている。



イベントの様子

2021(令和3)年度卒業式

3月17日（木）、福岡女子大学第69回卒業証書・学位記及び大学院第28回学位記授与式が、大学会館において卒業生代表（各学科・研究科1名ずつ）、学内役員、来賓という小規模な式典の形で執り行われ、その様子はライブ配信されました。式典終了後、各科ごとに学位記伝達式が行われ、255名の学士、15名の修士が誕生しました。



ご卒業おめでとうございます



福岡女子大学で学んだことや、出会った先生方、友人はかけがえない宝物になりました。そして、家族、先生方、友人らの支えがあったからこそ、今の自分があるのだと思います。大変感謝しております。ここでの経験・出会いを胸に、社会人として頑張ります！

松永 未来乃さん（国際教養学科）

尊敬する教授のご指導を仰ぎ、素晴らしい仲間たちと切磋琢磨しながら過ごした研究室での時間は、私の人生における宝物です。福女大で学べて本当に良かったと思います。全ての出会いとご縁に感謝し、本学卒業生としての誇りを胸に社会に羽ばたきます。

福島 成美さん（環境科学科）



福岡女子大学で過ごした4年間は私にとってかけがえない時間となり、思い返せばきりがいいほど、たくさんの素敵な思い出ができました。貴重な経験ができたのは先生方や家族の支え、そして、大好きな食健のみんなのおかげです。この縁ある出会いに心から感謝しています。

元平 侑那さん（食・健康学科）

新クラス委員紹介

国際教養学科	欧米言語文化コース	砂田 実可子
	国際経済・マネジメントコース	松永 未来乃
	日本言語文化コース	中尾 春佳
	東アジア地域研究コース	時 楓華
環境科学科	国際関係コース	上田 有沙
	環境物質コース	福島 成美
	環境生命コース	宮崎 真奈美
	環境生活コース	青木 春香
食・健康学科	環境政策コース	中村 咲
		元平 侑那

第68回かすみ祭への参加

10月30日（土）に開催されたかすみ祭では、新型コロナウイルス感染症防止のため、皆様方に広くご案内できず残念でしたが、同窓会は「つくしみ交流会」の再発見をテーマに参加しました。内容は3部構成で、第1部は、在学生、卒業生、会長や理事が大学会館でプレゼンテーションを行い、その様子は大学限定のYouTubeで配信されました。第2部からは講義室で実施し、プレゼン参加者相互及び観客とのトークショー、第3部は理事2名が講師となり、折り紙や煎茶の体験講座を開催しました。

卒業生で、プレゼン参加者の村嶋祐佳さんは、「こ



つくしみかい 筑紫海会 へようこそ

ご入学・ご進級 おめでとうございます！

福岡女子大学同窓会「筑紫海会」は、女専開校4年後の昭和2年に発足、95年の歴史と伝統を誇る同窓会です。現在女専時代から数えて卒業生は14,000名程になっています。新入生、在学生のご入会をお待ちしています。

- 同窓会では留学への支援（補助金提供）をしています。
- 大学との共催事業を行っています。
- 会報を年1回発行します。
- 同窓生同士が互いに育ち合います。
- 入会手続きは、筑紫海会事務局（地域連携センター1階）へ。

TEL・FAX 092-692-3194

【入会金】30,000円【年会費】3,000円（在学中の年会費は不要です。）